



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。



稲刈り

天の采配か、近年では珍しく天災に見舞われることもなく、米も野菜も大収穫となりました。稲わらや麦わらの工芸品も新作がいっぱい。コロナ禍を吹き飛ばすような笑顔に満ちた晩秋の谷戸へ、まつりの雰囲気を味わいにおいでください。

谷戸往来

秋の谷戸まつり 11/29(日) 10:00~13:00

場所：野外生活体験広場(荒天中止)

炊き出しはおこないません。

頒布コーナー

新米・正月飾り・わら細工・根菜類

体験コーナー

正月飾り作り・ノコギリ体験



マスク着用にてご来園ください。コロナ感染症拡大防止策を行っております。ご協力をお願いします。

100号を記念して、各班の特集を組みました。リーダー・サブリーダーによる活動紹介をお楽しみください。

肌寒くなってくる11月でも、小春日和の日にはチョウが飛びます。近年増えてきたウラナミシジミという南方系のチョウは11月まで活動しています。11月に見られるチョウの多くは、これから冬越しするチョウです、谷戸で普通に見かけるチョウは、年間を通して約40種ほどですが、そのうち成虫（チョウの姿）で冬を越すチョウが8種類もいます。中でも黄色のキタキチョウ、橙色のキタテハは特に目立つチョウでしょう。無事に冬を越せば、3月～4月には産卵して、次の世代が初夏～梅雨にチョウになるのです。長い冬をチョウのままで過ごすために、栄養補給と安全な越冬場所が必要です。野菊（ノコンギクやヨメナ）、ヤマハッカ（紫色の花穂が目立つ）など畑や田んぼに咲く花には、晩秋までチョウがたくさんやってきます。意外に多く利用されているのが、セイタカアワダチソウやセンダングサ類の花です。セイタカアワダチソウは帰化植物で駆除の対象ですが、最近はチョウなど昆虫に花のミツを供給する役割が注目されているようです。センダングサの実



キタテハ

の実が衣服にくっつくので嫌われますが、晩秋のチョウにとって重要な栄養源になっているようです。長い冬をチョウはどのように過ごすのでしょうか。昨年、市内の緑地でムラサキツバメというチョウが集団越冬の様子を継続して観察しました。散策路沿いに生えたタブノキ（常緑樹）の葉に身を寄せ合うように集団で越冬しており、天気の良い日に少しだけ飛んでは元の場所に戻ることを繰り返していました。残念ながら冬が終わる頃にはほとんどがいなくなっていまい、冬越しの厳しさを感じました。タブノキなど常緑樹は、雑木林の手入れでは切られてしまう木ですが、チョウなどの冬越しに役立つようです。谷戸のように限られた広さの里山で、さまざまな生きものを守るためには、里山の手入れと矛盾することもあり考えさせられます。

●谷戸の様子

今年の関東地方では、台風の被害がなかったことが幸いでした。しかし、8月の記録的な猛暑が9月半ばまで続き、10月になると急に寒くなるなど、秋という季節がなくなったことを今年も実感しました。生きものの暦にも狂いが出ており、オニヤンマやシオカラトンボといった夏のトンボが、10月になっても多く見られました。通常、秋の彼岸ごろにアキアカネ（赤トンボ）と入れ替わるはずですが、昨年あたりから、10月上旬以降に遅れる傾向が出ています。ヒガンバナ、湿地のミゾソバなど、秋の花も一週間ほど開花が遅れました。地球温暖化の影響で夏が長くなり、その分、秋がなくなる傾向があるように思えます。



オオミゾソバ

谷戸往来

稲わらを寄付

小袋谷町内会に稲わらを寄付しました。毎年、巖島神社の鳥居のしめ縄を町内会で手作りしていますが、稲わらが手に入らなくなり、今年は当会の稲わらが一役買います。太さ10cm、長さ3mほどのしめ縄となり神社を飾ります。

助成金採択

「関東・水と緑のネットワーク」

このたび、当会の自然と共存した持続可能な拠点づくりを進めている点が評価され、「関東・水と緑のネットワーク」の活動拠点に選定されました。拠点活動の強化のため、谷戸内の循環の輪をつなぐ刈草・落ち葉の堆肥化活動に助成金を受けます。

体験学習

今年度は、秋以降の体験学習になりました。春から秋までの谷戸へ来られなかった期間、子どもたちは当会が作成した「谷戸田の米作り」ビデオでの学習となりました。来園を楽しみにしていた子どもたちの感想文です。

深沢小5年 稲刈り 9/24

★学校の稲と比べて、とても大きくて稲の実の色も濃かった。泥はとても柔らかく初めての感覚でした。稲を切るときはかたいかなと思ったけど、あんがいすぐ切れて楽しかったです。

★稲をかるときのザクッという音が気持ちよかった。川の中で足をあらうというのがびっくりしたが、中央公園の自然で足をあらっているようだった。

★やり方は左手で稲を持ち、右手で鎌を持ちます。鎌をへい面ギリギリにして稲を刈る。



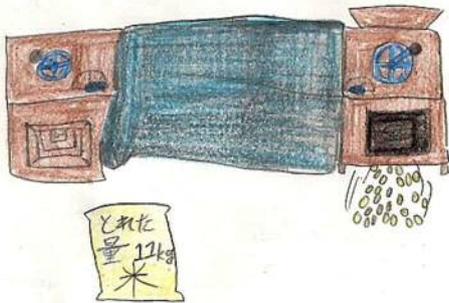
★どろの中に入ってみたら、ものすごく深かったのでおどろきました。いねを竹にほすのもはじめてだから、いろんな工夫がされているんだなと思いました。コロナウイルスでいねかりもできるか分からなかったから、できてとてもうれしいから、あきらめずにがんばりました。

★米作りをしている人たちは、ずっとこんな大変なことをして、私たちにお米を作ってくれていたことが分かりました。これからは、お米を残さずに1つぶ1つぶおいしくいただきたいなと思いました。



★稲が下向きになっていて、重たいんだなと思いました。本当に稲刈りは楽しかったです。

富士塚小5年 脱穀 10/28



★唐箕は回すのも、口の開閉を調整するのもすごく楽しくて、友だちは最後らへんはベテランのようだったので、おもしろかったです。



★足ぶみだっこくきを使いました。きちんと持っていないと、稲がだっこくきの奥の方にいきそうになりました。足でふむのは、見ているときは簡単そうだと思います。でも強く早くふむと、けっこうつかれました。

★だっこくは、機械でやった方が楽だが、手作業だと楽しいですね。

★千歯こぎのときは、お米がとれる音や、いっきにはずれたときは、うれしかったです。昔はいろいろ手間がかかってすごく大変そうだなと思いました。



教育支援教室ひだまり

さつまいも畑土手の草刈り 8/4

(教諭) 道具を毎回手入れすることで切れ味を保ちながら長く使うこと、谷戸で大切にしている心がけをまた一つ学ばせていただきました。

(中1) お米や里芋などの畑がたくさんありました。案山子も何個かありました。いろいろな表情をしていて見るだけで楽しかったです。その後、梅の木の周りの草刈りです。中條さんが、鎌の使い方と気を付けるところをおしえてくれました。やってみると、初めのほうは、うまく刈れなかったけど、1回1回刈っていくうちに、うまく刈れるようになりました。難しかったけれど、楽しかったです。

畑班の活動

自然と共存しながら、根菜類を中心とした作物を栽培しています。

老若男女、好きな作物は違っても好きな食べ物はインドカレーで一致。和気あいあい楽しく活動しています。

畑（裸地）の存在はバッタ、コオロギだけでなく、クモ、ハチ、トカゲなど多くの生きものに生活の場を提供しており、豊かな生態系の保全に役立っています。



※活動日は毎月、日曜日、月曜日、水曜日各1回の3回が原則で、年間38回です。(4回の月が2回ある)

活動時間は9時30分から12時までで、欠席、遅刻・早退、早弁すべて自由です。

雑木林管理班

雑木林管理班の活動日は毎週日曜日です。年末年始を除き、ほぼ毎週活動しています。

◎秋～冬

稲刈りも終わり、農閑期に当たる季節が、雑木林の手入れの本番シーズンです。

- ・毎年11月上旬に、雑木林を歩いて状況を確認し、除間伐する木を選定します。
- ・伐採した木材は、かつては炭焼きをしていましたが、現在は、薪（一部は谷戸まつりで頒布）、柱、柵、杭として利活用します。
- ・除間伐のほかに、毎木調査（胸高直径を計測）を継続して行い、木々の成長を確認しています。
- ・春先には竹林整備とタケノコ掘り、秋口には栗拾いも行います。
- ・父と子の里山体験は、当班も全面支援しています。



チェーンソーで伐木



ノコギリで伐木



毎木調査



エンジン式薪割機で薪作り



本田周囲の柵作り



竹林整備(タケノコ掘り)

◎春～夏

雑木林の手入れはシーズンオフです。

- ・田んぼの繁忙期は田んぼ班の活動に参加し、その他は殆ど草刈りを行っています。



土手の草刈り



刈り払い機で草刈り



雑木林の下草刈り

当班に興味を持たれた方の参加をお待ちしています。

田んぼ班の1年

毎週日曜日に1反7畝(17a)の田んぼを、カエルやトンボなどたくさんの生きものたちと、無農薬の手作業で耕作しています

種籾蒔き

よい苗作りで米作りの半分が決まる
太くて丈夫な苗を育てるために、
選別した種籾を使い、芽出しの具合、
種籾の蒔き方、土・くん炭のかけ方
などを工夫



😊 33%
・鎮圧が楽しい
・収穫を見据えての期待!

籾殻くん炭

来年の種籾蒔きに向けて
もみ殻を炭にする



😊 57%
・くん炭の出来具合
で落ち着く冬の一時期
・種火がうまくつけば、あとはゆっくり見守る

脱穀・籾干し・籾すり・精米

食べられる状態へ!



😊 25%
・収穫量の実感
・やっとご飯になるぞと思う



足踏み脱穀機

稲刈り・はさ掛け

いよいよ収穫!



😊 75%
・達成感、充実感
・ザクザク刈れる感触がいい
・「小束まるき」が好き

😞 4%
刈った後の田んぼが物悲しい

田うない

昨年の稲株を一つずつ「マンノウ」でひっくり返す



😊 50% 全身を使ってリズムよく返せると爽快



マンノウ

😞 10% 重労働



はさ作り

はさ:刈った稲を干すために使う



😊 30%
・メンバーの連携が必須
・紐結びのノウハウが肝心

😞 20%
台風に負けない強い
「はさ」ははずかしい

くろつけ

「鍬」で、畔を土で固め、左官のように滑らかに仕上げる



😊 50%
・鍬使いを7年で極め、最近では芸術家気取り
・きれいにできた時、嬉しい!
・田んぼがお化粧したように美しくなっていく、たまらなく素敵

😞 50% 技術的、体力的にも難易度が高い

ネット張り

外敵から守るためにネットを張る



😞 40% うまく張れない

すがい作り

すがい:稲刈の際に使用する藁の紐



😊 33%
・お喋りしながらの手作業で楽しい
・昔からの結び方を継承したい

しろかき

唯一機械(耕運機)を入れて泥を攪拌
「エブリ」で泥を水平にならす



😊 36%
泥が沈殿して、水と二層に分かれたときの
コントラストにうっとりする



エブリ

😞 43%
・泥との戦いに敗れる
・平らにするのは難しい

苗床草取り

😊 58%
・まだ冷たい田んぼの
感触が心地よい
・終わった後の達成感あり

苗取り

😊 50%
・頭を真っ白にしてできる作業。
悩みごとがある時には、いいかも
・無の境地 修行僧に通じるかも

田植え

😊 8%
まっすぐに植え、
縦横揃えるのがむずかしい





田の草取り

炎天下、腰を折ってのつらい作業だが、
稲の成長が感じられる



😊 42%
・水をかき混ぜる音と、
時折吹き通る風が
心地よい
・生きものとの出会いも多い

😞 26%
稲の葉先が、目や顔に刺さる

農芸班

6月「梅の収穫・下漬け」から、農芸班の1年はスタートします。7月「赤じそ仕込み」8月「天日干し」と続き、できあがった梅干しは谷戸まつりで頒布されます。昔ながらの塩分20%の梅干しで、夏の暑さを乗り切ります。



9月、夏の間に成長したセイタカアワダチソウ、クズの葉、カナムグラを抜いて「草木染め」をしたり、しおり、左馬、花かごやカエルなど「小麦のわら細工」を楽しんでいます。写真は藍を育てて生葉染めをした様子。絞り模様が美しいです。



田んぼ班や畑班が丹精込めて育てた農作物や谷戸の資源を加工します。手作りの楽しさ再発見の場です。活動を通して、谷戸の自然の素晴らしさを感じてください。ご参加お待ちしております。

10月「小麦選別、製粉」脱穀後は、ごみや石などを取り除く選別をします。手作業で根気がいります。製粉機にかけて粉にし、うどんやおやきで味わいます。外皮の「ふすま」も人気があります。



11月中旬、天日干し後の「たのくろ豆」を、足踏み脱穀機、さいづち(手製の木道具)で殻出しをします。さやの皮がはじけて、たのくろ豆が飛び出すと、子どもたちが拾うお手伝い。味噌作りの材料になります。



12月、谷戸の風物詩の一つ、天日干し大根を、田んぼ班の無農薬米のめかと合わせて「たくわん」を作ります。日をいっぱいあびた大根は絶妙な歯ごたえと風味があります。



2月、たのくろ豆を使った「味噌作り」。茹でた豆をすり鉢、すりこぎでつぶし、米麴、塩と混ぜ合わせて、1年寝かせ、発酵、熟成させます。すると・・・谷戸まつりでお馴染みの美味しい谷戸鍋の味噌に大変身!



里山探検隊（7年目）

年6回 小学生対象

1年間通して谷戸でしかできない作業体験
いろんな地区の子どもたちが集まります。



子ども里山一日体験（9年目）

年2回 小学生以下の子どもと保護者対象

畑の収穫体験、試食の企画が人気です。



自然遊び班

子どもたちは、里山ならではの体験をして、出会う生きものが季節ごとに違う自然のおもしろさを感じることができます。



父と子の里山体験（10年目）

年2回 幼児から小学生までの親子

雑木林班のおじさんたちと、ノコギリを使って、竹や木を切ったり、かまどで火起こし。大人も夢中になってしまう作業です。



夏休み企画 子ども里山体験

（公財）鎌倉市公園協会と協働開催 3年生以上の小学生

かつては1泊2日のお泊り体験でしたが、今は日帰り体験です。谷戸作業をして、かまどで自分たちの夕食作り。夜の谷戸散歩では、ホタルと出会うことができます。



広報かまくら、山崎・谷戸の会の会報にて、
企画のお知らせや募集をしますので、連絡を
お待ちしております。



ようこそ『植物育成班』へ

カマ、スコップ、図鑑をもってフィールドへ出かけよう。

そこには、たくさんの花や生きものが待っている。

谷戸に立ち、澄み渡る空気を胸いっぱい吸うと、穏やかな気持ちになる。

草がぼうぼうに生い茂り、たくさんの花が咲き、虫が飛び回る。

一見ただの草むらにしか見えない。

よく見ると、いろいろなところに谷戸ならではの植物が見つかる。



ツルニンジン

植物育成班は「よい状態の草ぼうぼう」を目指している。

「よい状態の草ぼうぼう」とは、野草の成長の妨げにならず、生きものに心地よい状態を保つということ。

見た目は草ぼうぼうで、ほったらかしに見えるかもしれないが、背丈が伸びる草、巻き付く草、他の草に影響する草……。何も手を入れていないわけではない。野草を守り育てることが目的なので、そのために必要な作業を行っている。

野草への影響が大きくなる草の刈り方、刈る時期を見極めることが大切。草刈りも、ただガムシャラに刈ればよいというわけではなく、それぞれの草の特性を知ることが必要。それには草を刈る前に、そこに生えている草をよく見ることがポイントになる。

マニュアルはまだありません。手探りの中、メンバーと共に、どうしたらいいか試行錯誤しながら作業している。草むら、湿地、土手の状態によって、どのように手を入れたらいいのか段々とわかってきた。それでも、わからないことの方が多いのが現実。失敗するかもしれないけれど「やってみよう」と毎年、新しい発見をしながら植物を守り育てている。

魅力は、身近にあること。毎週、毎月、毎年の積み重ねが、じわりじわりと実を結ぶこと。植物を軸にしたコミュニティーができること。男女年齢を問わず、「植物」という共通の話題で会話が弾む。

無理をせず、完璧を求めず、遊び心を持って楽しもう🍀

これこそが植物にも一番！！



●生態系保全班とは？

田畑周辺の湿地や水路の保全と生きもののモニタリング調査（基本的な生きものの増減）を中心に、活動しています。田んぼや畑で増えた里山の生きものが周辺に広がっていくのを助けたり、湿地や水路ならではの動植物を守ることを目的にしています。

●誰でも参加できます

自然が好きな人なら、生きものを知らない人でも参加できます。参加するうちに、谷戸の生態系が理解できるでしょう。観察と作業を同時に実施しています。畑班で活動したり、雑木林管理班の経験者もいて、田んぼ（小段谷戸）で作業をする日もあります。毎週水曜日の活動が主ですが、観察会を土日に行うこともあります。近年は新しい参加者が増え10人近くで活動することもあります。午前のみなど、部分参加も可能です。



ウラナミシジミ

●活動の様子

午前中は調査観察、午後は保全作業の日が多いです。環境省の「モニタリングサイト1000 里地調査」に参加しており、観察データを活かすようにしています。ツル植物の除去、冬季の湿地の刈り込み、水路の保全や草刈作業、帰化植物の除去作業などを実施しています。



カヤネズミの赤ちゃん

●近年の谷戸の生態系から感じること

温暖化で、南方系のチョウが増えたり、ホタルの出現が早めになったりしています。長年、ツル草を除去するなどした成果で、湿地の植物が安定して生育するようになってきました。樹木が大きくなり林の容積が増したため、キビタキなど山奥の森にいるはずの野鳥が、里山に進出してきました。一方で、ホオジロなど里山の野鳥は減少傾向にあり、田畑の存続が里山の野鳥の保全につながっています。ノウサギが激減しましたが、これは、畑や草地の減少やアライグマの増殖が関係していると思われ、全市的な傾向のように感じます。この谷戸の特徴として、カヤネズミが生息していること、カエルが多いことなどがあげられます。これらのモニタリングと保全活動を継続していきたいと思えます。

●谷戸の生態系が抱える問題

谷戸は周囲を住宅に囲まれているので、外来種の侵入が絶えません。帰化植物の除去作業にかなりの労力を費やしています。花の咲く野草を根ごと掘り取って持ち帰ったり、アカガエルの卵を大量に持ち去る人もいます。残り少ない小さな田んぼに、周囲から野鳥などが殺到しています。本来田んぼには来ないはずの野鳥、例えばアオサギがひんぱんに訪れ、カルガモがオタマジャクシを大量に食害し、生態系に影響を与えるほどになってきました。また斜面の林の樹木が大きくなり、日照を妨げるようになってきたことが、湿地の植物をはじめ、谷戸全体の生態系に大きな影響を与えています。



アカガエル



バッタやコオロギの分布調査



水路の手入れ

11月

- 1日(日) 田 脱穀(予備)、はさ片付け
 雑 雑木林の除間伐
- 3日(火・祝) 田 粃干し・溝切り・畔修理
- 4日(水) 子育て懇談会主催
 「谷戸で遊ぼう! さともと泥んこ」
- 7日(土) 田 粃すり・精米・わら切り
- 8日(日) 田 粃すり・精米・わら切り ❖
 畑 たのくろ豆の収穫・吊るし干し ☆
 雑 雑木林を歩いて調査 ❖
 自 こども里山一日体験「さとも掘り」▶
- 15日(日) 田 粃すり・精米・わら切り
 雑 雑木林の除間伐 ❖
 青空自主保育にこにこ会保全活動
- 16日(月) 畑 さとも掘り・洞入れ ❖
- 22日(日) 田 わら切り・落ち葉かき ☆
 雑 雑木林の除間伐
 自 父と子の里山体験
 「堆肥って何? 親子で虫観察」▶
- 25日(水) 畑 たまねぎの苗植え
 農 たのくろ豆の殻出し・選別 ❖

29日(日) 秋の谷戸まつり 10~13時

田：田んぼ班 畑：畑班 雑：雑木林管理班
 農：農芸班 自：自然遊び班
 生：生態系保全班 植：植物育成班

12月

- 2日(水) 畑 大根の収穫・洗い・干し ❖
- 6日(日) 田 落ち葉かき、苗床耕し、土ふるい ☆
 畑 落ち葉かき・土壌改善 ❖
 雑 雑木林の除間伐 ☆ ❖
 自 里山探検隊「やきいも」
- 13日(日) 田 粃殻くん炭 ❖
 雑 雑木林の除間伐 ❖
 会員親睦会
 講座「正月飾りづくり」☆
- 14日(月) 畑 大根の種蒔き、にんじんの収穫 ☆
- 16日(水) 農 たくわん漬け ❖
- 20日(日) 田 粃殻くん炭
 雑 雑木林の除間伐
 かまくらレンジャーズ
- 23日(水) 生 冬鳥生息地のパトロール ❖

☆ 谷戸塾 ❖ 里山一日体験
 ▶ こども里山一日体験、父と子の里山体験
 会員以外の方 参加費 500円/組

各班活動 農家風休憩舎 9:30 集合
 (農芸班は、10時)

1月

- 10日(日) 田 粃殻くん炭、堆肥切り返し ❖
 雑 雑木林の調査・測定 ☆ ❖
- 13日(水) 畑 畑の整備
 植 野草生育地の手入れ ❖
- 14日(木) 春の七草粥・どんど焼き (予定)
- 17日(日) 田 粃殻くん炭・堆肥撒き
 雑 竹の伐採 ☆
 自 里山探検隊「竹細工」
- 18日(月) 畑 荒おこし ☆
- 24日(日) 田 粃殻くん炭、堆肥撒き ☆
 畑 じゃがいも畑の耕し ❖
 雑 間伐材整理 ❖
 講座「雑木林の管理」☆
- 31日(日) 田 粃殻くん炭、苗床耕し ❖
 雑 雑木林の除間伐

今後の情勢によって中止や延期の可能性があります。
 ホームページ、または事務所にご確認ください。

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内

TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く10時~16時

ホームページ : <https://yato-yamasaki.sakura.ne.jp>

Eメールアドレス : ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

● 次号(会報101号)は、2021年1月に発行予定

